

「仲間とともに運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に学ぶ子どもの育成」を目指すことで、運動好きな児童を育てる。～「1日1回外遊び」で体力向上～

大分県由布市立挾間小学校

全校児童数	628名(男子321名 女子307名)		
全クラス数	26	教職員数	48名
体育専科教員訪問学校数			9校
訪問校	塚原・由布院・川西・阿南・谷東庄内・西庄内・石城・由布川		
体育専科教員名		江良 信司	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆児童数に対して運動場が極端に狭いので、休み時間の遊びに制限が生じる。
- ◆社会体育等で常時身体を動かす児童と、そうでない児童の運動機会の格差。
- ◆児童の少子化、広範囲な校区、習い事の多さ、室内遊びへの偏り、などの影響もあり、本来遊びを通して培えるはずの「運動神経」が育ちににくい環境にある。
- ◆過去の体力調査では「柔軟性」「持久力」が劣っている。

2 取組の計画

- 仲間と見合い・教え合いをすることで、技のポイントが理解できる授業を実践し、体育好き、運動好きな児童を育てる。低体力層の児童も運動好きに（本務校/訪問校とも）
 - ・「めあて」を達成するための効果的な場の工夫を行う。
 - ・見合い、教え合いで仲間と関わらせ、技能を身につけさせる。
 - ・有効的なTT指導のあり方を研究する。
- 挾間町、庄内町、湯布院町への訪問指導で、体力向上プランの実践の検証、有効的なTT指導や場の工夫、関わり合いによる見合い・教え合い学習を進め、体育好きの児童を育てる。
- 市内9校を訪問することで、市内の小学校体育の指導レベルを把握する。
- 由布市体育主任会で一校一実践の情報交換を行い、由布市全体で体力向上を図る。

Do：実践内容

1 体育授業の工夫（めあて&振り返りの定着）

(1) 授業始まり

- ①学年の発達段階・個々人の運動能力に応じた、サーキットトレーニング（屋外）・柔軟運動（体育館）の設定。
- ②単元に応じた、準備運動の設定。

(2) 授業の展開

- ①毎時間、「運動の技能」に限定した、「目当て」の確認時間を確保し、目的を明確にさせて授業に臨ませた。
- ②目当ての設定に関しては、活動内容によって、全員同じ目当てで取り組ませたり、個人の技能レベルに合わせて複数の目当てから選択させたりした。

(3) 授業の振り返り

- ①各自でつぶやかせたり、代表者に発表させたりした。
- ②教室での空き時間を利用し、振り返りを記録に残し、次時につなげさせた。評価の参考資料にもなった。

2 実践授業での指導法の研鑽（モデル授業の活用）

- (1) 推進教諭の実践授業をタブレットで撮影し、その動画と指導案を参考に、各担任が授業を行う。

- (2) モデルクラスの授業動画を、全クラスの担任・推進教諭が視聴することで指導技術を共有し、授業改善の話し合い材料として活用した。

3 外遊びの充実

(1) 遊具の開発・遊び場の設置

- ①竹馬を授業で扱うことで、遊び時間の中にも浸透した。上級生が下級生に教える場面が増えて、竹馬を通しての異学年コミュニケーションが出来上がっていた。
- ②「コーン鬼ごっこ」の、遊ぶ場・時間の確保を行った。
- ③休み時間における、ドッジボール遊びの頻度を上げるために、コートを用意を事前に行った。

(2) 「投てき力」向上を目的とした取り組み。

- ◎ロープとバトンを利用して、遠投教具の設置を行った。

(3) 「鬼ごっこ遊び」の普及活動

- ◎自校では休み時間・訪問校では授業の中で、色々な「鬼ごっこ遊び」を紹介し、運動中の「目」の活用能力の刺激活動を継続的に行った。

●工夫したこと（&苦労した点）

- ①授業時の目当ての持たせ方は、ホワイトボードを利用し視覚にも意識づけた。
- ②授業の振り返りは、「振り返りカード」を使用し、担任と協力して継続的に取り組ませた。
- ③個々人のタブレットを授業で活用させることで、児童に自身の演技・競技を即座に確認させることができた。

Check：取組の成果

- ①10校を訪問することで、各学校の体育の実情を把握でき、問題点などを市教研で報告できた。
- ②アンケートの「目当てを意識し、授業の終わりにしっかりと振り返ることが出来た」が、一学期90.8% ⇒ 二学期92.3%
体育授業に関しては両学期ともに100%達成。
- ③アンケートの「天気の良い日は、外遊びをした」が、一学期69.3% ⇒ 二学期73.2%
- ④アンケートの「体育の授業が楽しい」が、一学期92.1% ⇒ 二学期93.9%

Action：今後の課題

- ①由布市職員専用の共有サーバーを利用し、各学校の担任の体育授業動画を閲覧できるようにすれば、体育の指導レベルを上げることが出来る。
- ②授業のふりかえりや、授業アンケートにタブレットを効果的に利用することで、授業の効率化を図る。
- ③「運動能力テスト」「運動会」「その他の体育的行事」を見据え、

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・効率的な授業運営（準備・片付け・T&T・電子機器の活用）を行うことで、運動量の確保が出来る。休み時間の遊びを充実させることで、同学年・異学年間のコミュニケーション作りに役立つ。全校が、一つの目標の元に体育授業を行える。

自校での授業風景



図

訪問校での授業風景

